令和8年度 いわき資料常設展

集結！
いろいろな学校の校章

高校　高専　大学
特別支援教育学校
専修学校

いわき総合図書館　〒970-8026　いわき市平字田町120　☎ 0246-22-5552

はじめに

当館では、令和5（2023）年度に小学校、令和6（2024）年度には中学校の校章を紹介する展示を行いました。

市内には、この他にも、高等学校・大学・高等専門学校・特別支援教育学校・専修学校といった、様々な特色を持った学校があり、それぞれに発展してきました。

今回の展示では、それらの学校を対象に、学校のシンボルである校章やそのモチーフ等を紹介します。

個性豊かな校章を通し、地域の学校とその辿ってきた歴史を知るきっかけとなりましたら幸いです。

なお、開催にあたり、ご協力いただいた福島県教育庁いわき教育事務所、また、調査協力および校章の画像提供をいただいた市内各学校に、この場をお借りして御礼申し上げます。

いわき市立いわき総合図書館

校章とは

それぞれの学校を象徴する記章のこと。ブレザーや帽子、ボタンなどに使用するほか、校門、校舎、体育館などの施設にも使用され、所属する学校のシンボルとしての役割をもつ。

校章のモチーフは、地域の象徴的な植物や動物などと、学校名を組み合わせたものが多い。

校章の制定には、在校生等から募集することもある。

本展示における校章の由来は、市内の各校に提供していただいた資料をもとに、展示用に編集したものです。

無断転載・複製禁止

学校位置図

① 磐城高等学校
② 磐城桜が丘高等学校
③ 平工業高等学校
④ いわき商業情報高等学校
⑤ いわき総合高等学校
⑥ いわき光洋高等学校
⑦ いわき湯本高等学校
⑧ 小名浜海星高等学校
⑨ 磐城農業高等学校
⑩ 勿来高等学校
⑪ 勿来工業高等学校
⑫ いわき翠の杜高等学校
⑬ 磐城第一高等学校
⑭ 磐城緑陰高等学校
⑮ 昌平高等学校
⑯ いわき秀英高等学校
⑰ 福島工業高等専門学校
⑱ 医療創生大学
⑲ 東日本国際大学
　 いわき短期大学
⑳ 聴覚支援学校
㉑ 平高平支援学校
㉒ いわき支援学校
㉓ いわき市医療センター
　 看護専門学校
㉔ 磐城学芸専門学校
㉕ 磐城高等芸術商科総合学園
㉖ iwakiヘアメイクアカデミー
㉗ 松村看護専門学校

無断転載・複製禁止

高等学校

昭和22（1947）年に公布された学校教育法により翌年4月に発足した、義務教育である小学校・中学校を卒業した者に対して高等普通教育や専門教育を施す学校。高校と略される。

国立、公立、私立の区分のほか、普通教育を主とする普通科や、職業に関する教育等を行う専門学科がある。全日制、夜間等に授業を行う定時制、通信による添削指導等を行う通信制もあり、卒業資格を得るためには、全日制は3年、定時制・通信制は3年以上の在学が必要となる。また、高等学校を卒業した者に、特定分野のより高度な教育を行う専攻科を設置している学校もある。

学年にとらわれず、在学中に一定の単位を取得すると卒業できる単位制や、普通課程と職業課程をあわせもつ総合学科、中高一貫校など、形態も多様化している。

平成22（2010）年には、高等学校等就学支援金制度により、公立の高等学校の授業料が実質無償となり、令和2（2020）年からは、私立の高等学校もその対象となった。

福島県立磐城高等学校

徽章（校章）は、中央に校名の「磐」の字を置き、周囲には、金色の桜花を配したものと定められている。

福島県立磐城桜が丘高等学校

中央の長方形は、鏡を表している。鏡は、姿をうつすだけでなく心もうつし、常にその心を正しくするもの。

周囲の花は、学校のシンボルである桜をかたどったもので、桜が丘という校名にもちなんでいる。

福島県立平工業高等学校

校名の「平工高」の文字の周りを日本の象徴ともいえる桜の葉と花、つぼみで包んだもの。

生徒から図案を募集し、その数多い応募図案より選定された。

福島県立いわき商業情報高等学校

商業・情報教育の拠点校として、一人一人の個性が光る翼となり、希望と愛を胸に、未来に大きく羽ばたいてほしいという願いが込められている。

ヘルメスの杖は、地域と情報社会を結ぶ学びの中核であること、杖に絡みつく２匹の蛇は、古代から知恵や交渉の象徴、空へ大きく飛翔する翼は、地域社会と協調しながらも高く飛翔してほしいとの思い、四葉のクローバーは、生徒の心豊かな成長と温かな人間関係、四葉を描く万年筆は、勉学に励む姿勢と、人と人とのつながりを大切にする精神を、それぞれ表している。

福島県立いわき総合高等学校

いわき総合高校は、６つの系列を設ける、いわき唯一の総合学科の高等学校として開校し「生徒の個性が共生して、成長するための挑戦をする学校」として、未来をたくましく生き抜く、生徒一人ひとりの自己実現を応援する学校を目指している。

これを踏まえて、「６つの系列」・「未来を明るく照らす太陽の光」・「『いわき』『わたし』の『I』」の３つを図案化した。

無断転載・複製禁止

福島県立いわき光洋高等学校

青春を象徴する「緑色」の円をバックに、中心に「高」の文字を配し、その周りの「黄色」は希望の光の源である生徒一人ひとりの持つ情熱を表現している。

外円の「青色」はいわきの太平洋と地球をイメージして、未来に向かって生徒の希望が明るく輝く光と調和し「生徒の活躍と将来の学校の発展」への願いが表現されている。

さらに重なり合った五角形のそれぞれの頂点は、「光」が、広大な「洋」に限りなく発展していく様子が描かれている。

福島県立いわき湯本高等学校

湯本高校校章の特徴である六角形と、遠野高校校章の特徴である三角形を合わせることで、それぞれ70年を 超える歴史をもつ湯本高校と遠野高校が融合したことと、その学び舎で学んだ人々の思いを受け継いでいくことを表している。

また、周囲の三角形の青緑色は、いわきの海やいわき湯本温泉の源泉の色をイメージしている。 中央にはYUMOTOの「Y」があり、その形は「羽」と「芽吹き」をイメージしている。

「羽」は成長した若鳥が巣を飛び出し自立するように、いわき湯本高校で学んだ生徒が、社会に向けて力強く飛び立つ様子を表している。

「芽吹き」は明るい太陽に照らされて成長する若葉のように、生徒たちが目標に向けて日々、成長していく様子を表している。

福島県立小名浜海星高等学校

円環で、持続可能な未来や地球、多様な人々の調和などを表現している。

水平ラインと水色地は、生徒が共に学ぶ「武城の丘から望む太平洋」を表している。

また、小名浜高校校章を構成する「松」や、水産高校の伝統で「水」を表す六角星型を継承した。

福島県立磐城農業高等学校

中央に「イハキ（いわき）」の文字を配し、日本の農業の精神を24粒の稲穂で図案化したもの。

中心の農は勤労を、全体の円は協力を表している。

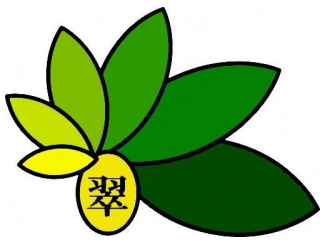
福島県立勿来高等学校

前身の磐城農業高校勿来分校から独立するにあたり、「ペンは剣よりも強し」の言葉を象り、それを安定した形にするため正三角に並べ、無限の学習意欲を表した。

福島県立勿来工業高等学校

学校の所在地周辺が古くから「菊田（菊多）の里」と呼ばれていたことにちなみ、菊の花を図案化し、その前面に工業高等学校の「工」と「高」を配した。

福島県立いわき翠の杜高等学校



校名にある「翠の杜」とそこで学ぶ生徒達への思いが、育ち行く木の葉と木の実でデザイン化されている。

スクールカラーのマラカイトグリーン（校章の最も大きな葉の色）は、校名の「翠（翡翠（ひすい））」の色と、校舎が緑に囲まれた丘に建つことを表したもの。

木の実は鶸（ひわ）色（もえぎ色）とし、その中に「翠」を配した。

社会であり学び舎でもある「杜」を育ち行く木の葉で表し、その杜で大きく育ち、多くの実りがあるようにとの思いが込められている。

無断転載・複製禁止

学校法人山崎学園
磐城第一高等学校

創立家の家紋「州浜」に、校名の「磐一」の文字を配したもので、下2つの円は、知育と体育を表し、上の円は、前二者によって形成された徳育を表している。

学校法人山崎学園
磐城緑陰高等学校

校名の「磐城緑蔭（Iwaki Ryokuin）」と頭文字I・Rをデザイン化したもの。

東日本国際大学附属
昌平高等学校

東日本国際大学を運営する学校法人昌平黌は、東京の開成夜学校が起源であり、黌章の「ペンケン」の部分については開成中学校校章に由来する。
中央に「大学」の文字を配して昭和40（1965）年に学校法人昌平黌の黌章として制定されたと推測される。

学校法人いわき秀英学園
いわき秀英高等学校

いわきの自然（山や海、海の波）をイメージしたデザイン。校名と「Iwaki Shuei」の頭文字I・Sを配置し、稜線のデザインは、進学を目指す姿を表現している。

高等専門学校

中学校を卒業した者に対して、高等専門教育を行う5年制（商船高専は5年6カ月）の学校。高専と略される。
昭和37（1962）年、高度経済成長にともない、工業に関する中堅技術者需要が高まったことから、その養成を目的に設置された。そのため、当初は、「工業に関する学科を置くもの」とされ、現在も大多数が工業高等専門学校だが、昭和42（1967）年からは、商船高等専門学校も設置されるようになった。
卒業生は、準学士の称号が与えられ、より高度な技術教育を行う専攻科を卒業すると学士の学位を取得できる。また、卒業生が進学できる高等教育機関として、大学院修士課程をもつ技術科学大学も設置されている。

福島工業高等専門学校

昭和37（1962）年度入学生（第1回生）に公募を行い、機械工学科学生の図案が採用された。
選考は、美術担当非常勤講師（当時）の若松光一郎氏が中心となって行われた。

若松光一郎氏
洋画家。
大正3（1914）年、現常磐湯本町に生まれる。東京美術学校（現東京芸術大学）油画科を卒業後、東京にアトリエをかまえる。
終戦後、帰郷。その後、抽象作品を手掛けるようになり、数々の個展を開く。
昭和37年、福島高等専門学校の講師となり、昭和60（1985）年まで続ける。
昭和51（1976）年、いわき市民ギャラリー設立し、会長に就任。
平成7（1995）年、死去。

無断転載・複製禁止

大　学

専門の学問や芸術を深く教育・研究するための高等教育機関。修学年数は4年が原則だが、医学系学部のような6年制や、2年または3年制の短期大学もある。大学院も含めて、「大学」と総称されることが多い。卒業後には、学士の学位が与えられる。

日本では、明治10（1877）年に、初めての大学として東京帝国大学（現東京大学）が設立された。大正7（1918）年、大学令が公布されたことにより、2つ以上の学部と研究施設をそなえた総合大学、1つの学部のみの単科大学、公立・私立の大学も設立されるようになった。そして、昭和25（1950）年からは短期大学も設立されるようになり、大学の形態や種類等が多様化され、大学の大衆化が促進された。

医療創生大学

大学の教育理念である「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」を象徴としている。

中央の縦長の空間は、人を中心とした医療を行う人材を育む器としての大学、未来へ伸びていく姿を表している。

また、外側の複数の曲線は、生命の広がり、世界に広がっていく様子を示しており、「人を中心とした医療」・「生命の成長」・「創生（新たに生み出すこと）」を表している。

学校法人昌平黌
東日本国際大学・いわき短期大学

東日本国際大学を運営する学校法人昌平黌は、東京の開成夜学校が起源であり、黌章の「ペンケン」の部分については開成中学校校章に由来する。

中央に「大学」の文字を配して昭和40（1965）年に学校法人昌平黌の黌章として制定されたと推測される。

特別支援（教育）学校

心身に障がいのある児童・生徒に対する教育を行い、学習上・生活上の困難の克服に必要な知識・技能を養うことを目的とする学校。平成18（2006）年の学校教育法の改正にともない、従来は、障がいの種類によって、盲学校・ろう学校・養護学校と分かれていた学校が、翌年、統合され、障がいの種別をこえた学校となった。

対象とする障がいの種別は、基本的には盲学校・ろう学校・養護学校と同様だが、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠如・多動性障害）、高機能自閉症の発達障がい児も対象となっている。

また、同じ地域の一般の学校に通う学習障がい等の児童・生徒やその保護者、学校・教員への助言を行って支援する役割もある。

福島県立聴覚支援学校

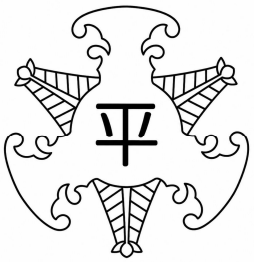
郡山本校
分校（幼稚部・小学部）
：福島校（福島市）
　会津校（会津若松市）
　平校（いわき市）

４枚の葉と４個の花は、福島県の花「しゃくなげ」を表し、本校（郡山）と３分校（福島、会津、平）の連携と発展を意味する。

中央の文字は、福島県の「ふ」を図案化して耳形を象ったもの。

無断転載・複製禁止

福島県立平支援学校



明るく・正しく・たくましくという思いが込められている。
太平洋の荒波は、わたしたちの試練であり、種々の困難がいかに降りかかろうと、松の若芽に込めたわたしたちの願いは無限の可能性を秘め、力強く、生長していくということを表している。

福島県立いわき支援学校

分校（高等部）：くぼた校

いわき市の花「つつじ」に、太平洋の「波」を配した。
上向きのつつじは、子どもたちの社会自立を願い、「希望と発展」を、それを支え包む波頭は、小学部・中学部・高等部一貫した教育を基に「活力と躍進」を表している。

専修学校

職業もしくは生活に必要な技能の育成、または、一般教養の向上を図るための学校。昭和50（1975）年に学校教育法が改正され、翌年、一定の規模、水準を有する組織的な教育機関として新たに発足した。修学年限が1年以上、年間授業数800時間以上（夜間課程では450時間以上）といった基準がある。
専修学校には、入学資格によって3つの課程が置かれている。中学校卒業後の課程は高等課程、高等学校卒業後の課程は専門課程、特に入学資格を定めない一般課程があり、高等課程を高等専修学校、専門課程を専門学校と称することができる。
デザイン、服飾、福祉、看護、理容、美容、調理などさまざまな分野の学校がある。

いわき市医療センター看護専門学校

「磐城共立高等看護学院」から現在の校名に改称する際、改称前の校章の歴史を引き継ぎ、枠となる月桂樹の葉と十字を残した。
中央には、いわき市立であり、いわき市医療センターの付属機関であることから「いわき」の字を配した。

学校法人畑学園磐城学芸専門学校

学業成就に願いを託し、初代校長家の家紋である「結び文」を土台に作成された。
中央には、校名(Iwaki Gakugei Vocational School)を、スクールカラーの紫紺の文字で配した。

磐城高等芸術商科総合学園

前身は「いわき青陽学園高等専修学校」と称した。前理事長は能楽の名取であり、謡曲「鶴亀」は、「それ青陽の春にあれば、四季の節会の事始め」という一節がある。
「青陽」とは春の陽気、すなわち万物が新に芽吹き、成長を始める季節を表す言葉。前理事長は「青陽」という言葉に、若者たちが春の光を受ける草木のように芽吹き、豊かな未来を築いてほしいという教育への願いを重ねた。
校章は、中央に高等専修学校の「高」の文字を据え、その周囲を菊花で囲んでいる。菊は、古来、長寿や生命力を象徴する吉祥の花であり、この校章に日本伝統文化を大切にした創立者の精神と、若者たちの成長と末永い幸福を願う思いが表されている。

無断転載・複製禁止

学校法人
iwakiヘアメイクアカデミー

理容師・美容師の大切な道具である、シザー（はさみ）をモチーフに作られている。

公益財団法人磐城済世会
松村看護専門学校

白いユリをモチーフとし、その中央に校名の略称である「松看」の文字を配した。
白いユリは西洋では聖母マリアの象徴として広く知られており、その思いやりの精神は看護の理念と重なることから校章のモチーフとして採用されたと考えられる。

参考資料

『いわき市の教育ガイドブック 令和８年度版』	いわき市教育委員会	2026	K/370/ｲ-2026
『いわき教育事務所要覧 令和８年度』	福島県教育庁いわき教育事務所	[2026]	K-370-ｲ-2026
『総合百科事典ポプラディア（第3版）』	ポプラ社	2021	R/031/ｿ
『新教育学大事典』	細谷俊夫 ほか	1990	R-370.3-ｼ
『現代学校教育大事典』	安彦忠彦 ほか	2002	R-370.3-ｹﾞ
『若松光一郎　律動する色彩』	いわき市立美術館	2011	K-708-ﾜ

各学校ホームページ

福島県教育委員会ホームページ　https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/

無断転載・複製禁止

令和８（2026）年10月27日 発行

■編集・発行　いわき市立いわき総合図書館

令和８年度　後期いわき資料常設展
「集結！いろいろな学校の校章
　　―高校・大学・高専・特別支援教育学校・専修学校―」
■会期　令和８（2026）年10月27日（火）
　　― 令和９（2027）年５月23日（日）
■会場　いわき総合図書館5階 地域資料展示コーナー